

基礎研究会プログラム
「秩序化における乱れと非線型
-ヘテロな物理系と量子揺動効果-」

5月22日(月) 13:30開会、連絡事項など

A. ガラス状転移と緩和現象(13:40-15:45) 司会:小貫 明

1. 小田垣 孝(九大理)(40+10)
ガラス転移とダイナミクス
2. 山室 修(阪大理)(20+5)
分子性液体・ガラスの部分的秩序化に関する熱的アプローチ
3. 尾関 之康(東工大理)(20+5)
サイトランダムスピングラス模型の対称性と相転移
4. 上野 陽太郎(東工大理)(20+5)
マイクロエマルジョンの格子スピンモデル

-休憩(15:45-16:05)-

B. フラストレート系の相転移(16:05-17:45) 司会:川村 光

1. 前川 覚(京大人環)(20+5)
かごめ格子反強磁性体 $RFe_3(OH)_6(SO_4)_2$ ($R=Na, NH_4$)の磁性と緩和
2. 黒田 明義(京大人環)(20+5)
古典かごめ格子反強磁性体の相転移
3. 渡会 征三(摂南大物理)(20+5)
層状三角格子反強磁性体の相転移
4. 中村 統太(つくば大)(20+5)
量子フラストレーション系のモンテカルロ法

懇親会(18:00-19:30)

5月23日(火)

C. 秩序化における量子揺動効果(9:30-11:35) 司会:高山 一

1. 鈴木 増雄(東大理)(40+10)
量子スピングラスの理論
浅川 仁(東大理)
1次元Random Transverse-Ising Modelの基底状態
2. 高須 昌子(金沢大理)(20+5)
スピンプゾンモデルの非指数的緩和
3. 宮下 精二(阪大理)(20+5)
量子ゆらぎと準安定緩和
4. 佐藤 武郎(東北大大理)(20+5)
 ^3He - ^4He 混合液相分離界面のダイナミクス

-昼食(11:35-13:00)-

D. 量子複合系の秩序化と非線型現象 (13:00-15:25) 司会：鈴木増雄

1. 都 福 仁 (阪大理) (40+10)
重い伝導電子のSpin Density Wave
2. 北 岡 良 雄 (阪大基礎工) (30+5)
2次元三角格子系におけるオービタルフラストレーション
3. 豊 田 直 樹 (大阪府大研) (30+5)
BEDT-TTF系の超伝導と磁性における非線型現象
4. 野々村 禎 彦 (東工大理) (20+5)
2次元量子ハイゼンベルグスピングラスの基底状態相図

— 休憩 (15:25-15:45) —

E. 超伝導体の秩序化と非線型応答 (15:45-17:50) 司会：都 福仁

1. 石 田 武 和 (大阪府大工) (40+10)
超伝導体の非線型帯磁率
2. 川 村 光 (京都工繊大) (20+5)
超伝導セラミックスのオービタルグラス転移
3. 松 浦 基 浩 (京都工繊大) (20+5)
超伝導セラミックスの逐次相転移と非線型磁化率
4. 米 田 守 重 (日本電子専) (20+5)
層状超伝導における渦糸場の理論

5月24日 (水)

F. スピングラスとその周辺 (9:15-10:40) 司会：永田一清

1. 高 山 一 (東大物性研) (30+5)
スピングラスのグリフィス相における Slow Dynamics
2. 伊 藤 厚 子 (お茶の水大) (20+5)
スピングラス系 $\text{Fe}_x\text{Mn}_{1-x}\text{TiO}_3$ および $\text{Mn}_x\text{Mg}_{1-x}\text{TiO}_3$ 交流帯磁率
— 周波数依存性と非線型帯磁率 —
3. 三 好 清 貴 (京都工繊大) (20+5)
非線型磁気応答に見る MCl_2 -GIC (M=Co, Ni)の逐次相転移

— 休憩 (10:40-10:55) —

G. 乱れのある系のダイナミックス (10:55-12:20) 司会：宮下精二

1. 池 田 宏 信 (高エネルギー研) (30+5)
異常スピン拡散
2. 高 野 宏 (慶応大理工) (20+5)
緩和過程のモードとしてのクラスター
3. Li, M. S. (京都工繊大) (20+5)
Absence of Reentrance in the Two-dimensional XY-model
with Positional Disorder

連絡事項など、閉会 12:30